

CICD Newsletter

College for International Development and Co-operation



Denmark, Sep 2009

CICD
Newsletter
For November

目次 :

Page 1 :

**Olympic Game
in Denmark
By ハナ**

Page 2 :

**South Africa
TCE Project
By パペル**

Page 3~4 :

**Mozambique
TTC Project
By 高木亜麻子**

Page 5~7 :

**India
TCE Project
By 相原進一**

Olympic Game in Denmark

私たち2009年5月チームは、デンマークにあるティヴィンド（DRHスクール）で、ケア・ホームから来た605人の子どもたちのために、オリンピック・ゲームを企画・開催しました。

私は他のDI（Development Instructor。プログラムに参加した学生のこと）たちに、仲間意識を感じました。なぜならば、私たちは皆、別々の国から来ていて異なったバック・グラウンドや性格を持ち、異なる言語を話しますが、私たちはアフリカとインドの人たちを助けに行くという、たった1つの目標があるからです！私たちは個々に全く違っていても、同じゴールを持っているのです。デンマークとノルウェーのDRHスクールのDIたちと会えたことは、私にとって素晴らしい経験で、とても感動的な瞬間でした。

私は今回の活動から、異なる国から来ている人々と共同作業を実行するためには、コミュニケーション能力がとても重要だということ学びました。また、私自身に関して言えば、新しい人や知らない人に会った時に、自分の内気な気持ちを壊すことが必要だなと思いました。創造的になることは難しかったですが、同時に楽しくもありました。また、私たちは以前よりお互いに親密になったと感じましたし、みんなが同じ様に感じていてくれるといいです。

今回の活動で私たちは熱心に働き、とても忙しく時を過ごし、同時にお互いに理解しようと努力しました。私は協力してくれたチーム・メイトのみんなに感謝したいです。みんなと素晴らしい経験のおかげで、とても素敵な時間を過ごすことができました。

2009年5月チーム ハナ（韓国出身）

South Africa ~TEC Project

南アフリカのTCEは、ハウテング州、ムプマランガ州、リンポポ州で行っています。このプログラムの核は、TRIO システムです。TRIO システムは人々にとって自らのHIV状況を知るためにフィールド・オフィサー（現地スタッフ）が行っています。

TCEはHIV 感染者の人、ARV 治療を始めた人を対象としていて、保障する友人、家族または隣人を繋いでいます。「TRIO」のゴールは、人々が処方された薬を手に入れること確実にすることです。また、副作用を扱ったり、楽観視から生じる感染の治療法を探したり、健康食を食べたり、社会的支援を受けたりと、様々な方法から



ボランティア・カウンセリング・テスト（VCT）は予防と治療サービスの入り口を構成しているため、HIV/AIDS治療の段階において他の重要な部分です。多くの背景・環境的要因から現地の人々はHIV テストを受けることに抵抗していますが、HIVの状況は他の全ての有効なサービスの手掛かりとなります。南アフリカでTCEが始まった時、HIV テストは人々を動員するキャンペーンの重要な要素でもありました。目標とされる60,000中、約21,000人は動員されてHIVのテストを受けました。そしてこのことは、私たちが上手に人々に説明して動員することができれば、彼らがテストを受ける気持ちがあることを証明したと言えるでしょう。

現在、南アフリカのTCE地区では、より多くの人々がHIVテストを受けることを望んでいます。南アフリカでTCEが始まってから現在までに、163,000人がHIVテストを受けています。



TCEプロジェクトでHIVテストを受けた人のインタビュー；

「私は何年間か結婚していますが、その間HIVのことについては自分の現実として考えていませんでした。私が自分もHIV感染者の1人であることに気づいたのは、TCEのフィールド・オフィサーが私を訪問した後のことでした。私はそれまで、HIVテストのことを考えたこともありませんでした。しかし、カウンセリングを受けたことで私を強くなり、現在私の人生を導いている決断をさせてくれました。私は多くの質問をして、最終的にはテストを受けることに同意しました。私はこの決断をしたこと幸せに感じています。」

私はTCEのDI（Development Instructorの略。開発インストラクター）として、フィールド・オフィサーたちが頻繁に彼らの活動地域に行けるように、またHIVテストのために地元の人を集める活動をサポートしました。また、私はスペシャル・フォースとVCT の人たちがテントを作る準備も手伝い、私たちはVCT活動中に25~50人がテストを受けにくるという目標を達することができました。VCT活動の最高の結果は、学校の近くで行われた時でした。授業後に多くの生徒がテストに来ました。その日、私たちは74人にテストを行うことができ、それはとても大きな成功であったと言えるでしょう。

2008年9月チーム パベル（ロシア出身）

Mozambique ~TTC Project

1. 自己紹介

CICDに来る前、私は2年半大学の生徒でした。私の専攻は外国語と文化でした。私は兼ねてより開発の仕事と教育に興味を持っていたので、海外ボランティアのために1年休学することを決めました。

私はフランス語を勉強していたのでフランス語圏のアフリカの国へ行きたかったのですが、何も見つけられず、そのかわりCICDを見つけました。私は「現状を見たい」-自分自身の問題として理解したいと思い、DIになることを決意しました。私はこれらの問題について勉強していましたが、学校の教室の外では感じることはできません。なので、私自身としてこの問題を体験してみたかったのです。



高木亜麻子さんと子どもたち

2. 私のプロジェクトと活動地域

私のプロジェクトはナカラのTTC (Teachers Training Collegeの略。小学校教員養成学校) でした。私の仕事は、先生として援助することでした。しかし、それはとても難しいことでした。なぜなら、私にポルトガル語とプログラムへの十分な理解がなかったためです。

その代わりに私は英語の授業を始め、内容を知り、別の方法で手助けするためにTTC内のすべての活動に参加しました。このことは実際本当に良かったです。私は生徒と先生のほとんどを知ることができ、それは素晴らしいことでした。

2ヶ月後、私は「モリンガ」のプロジェクトを始めました。私はモリンガに関するプレゼンテーションを行い、冊子を作り、教育実習としてTTCの学生と共に小学校に行きました。私はモリンガについて考え、コミュニティの生徒と共に植えました。私たちはコミュニティから種と枝を集め学校に植えました。



生徒たちのリサーチ準備に関わる



リサーチ、教育実習



土曜日のためのメンテナンス準備



幼稚園でモリンガを植える



マラリアのプレゼンテーション



幼稚園での折り紙教室

3. パートナー・シップ

私は世界中の子どもたちから絵を集めている日本の組織と共に、いくつかのパートナー・シップを作りました。私は子供たちが絵を描いた時に（60枚の絵です！）イベントを準備して、子供達は色ペンやその他の用具をもらいました。その絵は私がその組織に送り、彼らの展示に使用されます。そのテーマは「あなたにとって一番重要なもの」でした。私たちは彼らの絵から学ぶことができます。

4. CICDでの研修期間で学んだことと役に立つこと

1. 雑誌販売。私は見知らぬ人と話すことを学びました。

始めのうちはとても難しかったです。そして、アフリカで多くの事をする必要があったことは、とても良いことでした。

2. HIV/AIDSとマラリアに関する知識。

3. 壁を塗装したり、掃除をするなどの実用的な技術。

TTC ナカラは毎週土曜日にメンテナンスデーがあり、塗装の仕方などを教えなければいけませんでした！そして月に一回ビルディング・ウィークエンドがあります。

5. 私の最悪で最高の経験について

私の最悪で最高の経験は、リサーチ期間であったと思います。私はTTCの何人かの生徒と共に2週間、他の地域に行きました。この期間は難しくもあり、しかし同時に最高の瞬間でもありました。

生徒はその地区にある村の状況を知るために、学校や他の組織のスタッフとインタビューを行いました。彼らはその地区の情報をインターネットで調べるなどして、事前に準備をしていました。彼らは調査のテーマを農業と経済にしぼり、調査を実行しました。プレゼンテーション、演劇、病院での清掃活動—私はいつも彼らについて行きました。この経験はとても良かったと言えます。

彼らは健康とHIVというテーマも選びましたが、彼らが少し知っていたので、私は良いアドバイスをすることができ、私の持っている知識を共有することができました。

6. 今後について

今、私は残りの1年半を日本の大学で過ごすために日本に戻ろうとしています。私はどこで働くか、何をしている分かりません。ですが、私はモザンビークやアフリカともっと働きたいです。多分、私は友達と一緒に何かができるかもしれません。私は将来のために、開発に関してもっと学びたいです。

7. 次の人たちへのアドバイス

研修の全てが、あなたがプロジェクトで活動するにあたって役立てることができます。たとえそれがあなたにとって厳しくても、挑戦し続けてください！

私はプロジェクトの中で行われる全てのことに参加し、できるだけ多くの人と会話することはとても重要だと感じました。私にとって現地の人々と働くことは自然なことで、それは彼らのためという観点からではありません。プロジェクトや現地の人々、そして何よりもプロジェクトについてよく知ることができなかつたため、途中でギブアップしたり、他のプロジェクトに移ったDIもありました…。このことは、例えば小さな情報でも重要で、日頃からプロジェクトについてよく理解するように準備することが大切だと私は思います。



2008年9月チーム

高木 亜麻子

India ~TCE Project

私は2008年9月チームに参加し、日本人の参加者としては初めてインドに派遣されました。私は、22人のフィールド・オフィサーたちとインド北部BaddiのTCEプロジェクトで6ヶ月間活動しました。

私たちの仕事は人々に知識を与えることと、HIVウイルスから守りHIVテストを受けることで彼らが置かれている状況を知るために、彼らを動員することです。また、その他にも出張テストで血液検査を行ったり、路上で劇を行うことで注目を浴び、それによってフィールド・オフィサーたちがBaddiの多くの仕事場と工場で働く労働者とHIV/AIDSについて話すための許可を得ることも重要な仕事の1つです。



進一さんと村の女性

フィールド・オフィサーと他のDIたちはインドの異なる地区から来ていて、彼らと地元の友人を通して私は地元の状況と人々の生活を学びました。私はとても大きな矛盾を知ることになりました。なぜならば、私は裕福な場面を幾度となく目にしながらと同時に、とても貧しい地域で働いていたからです。インドは非常に複雑な国で、多くの性質を持っています。私は、普段は知ることのできないインドの内部を身近に経験しました。

私のTCEプロジェクト地域はHimachal Pradesh州のBaddiで、3月～8月末までそこで生活しました。Himachal Pradesh州はインドの北部にあり、気温は約35度でした。この州には多くの丘と山脈があり、州の隣はカシミヤ州でネパールも近いです。また、ヒマラヤ山脈は私のプロジェクトから近い場所にありました。

Baddiは工業地区なため、多くの企業や工場があります。そして、ヒートアイランド現象が起こり、これは東京にも同じようなことが言えます。Baddiには3,000以上の企業があり、多くの出稼ぎ労働者がインド全体から都市に働きに来ています。私はものすごい貧富の差を見ました。教育レベルは完全に異なり、それは個人や家族によって変わります。

私はたまたま機会があり、ある大企業の総支配人の家を訪れました。私はその家でとても美味しい昼ごはんを頂き、それは総支配人の奥さんが作ってくれたものでした。総支配人の家族はとても良い人たちで、彼らには2人の息子がいました。私たちはBaddiの状況について話し合い、自分の立場とTCEのプロジェクトについて説明しました。



町の通りで様々な知識を教えるフィールド・オフィサーたち



コミュニティで活動する
フィールド・オフィサーたち

彼らは私の活動に多くの共感をもってくれ、私は彼らに深く感謝しました。しかし、私は複雑な感情を抱きました。彼らはとても大きな素敵な家を持っています。しかしそれと同時に、同じ都市では多くの子どもたちが外で働いています。彼らのほとんどは、道でゴミを集めています。

Baddiは4つのタイプに人をわけることができます。

1つは地元の人で、彼らは土地を持っており裕福です。彼らは農地を持っているため、彼らは土地から離れて家を貸しています。彼らはBaddiの中級階級です。

2つ目は出稼ぎ労働者で、彼らはインドの様々な地区からやって来ています。彼らは仕事がありますが、それは一時的な仕事だけです。現在、インドの経済はとても早く成長しています。しかし、もし企業の財政状況とインドの経済状況が低迷すれば、企業は彼らをいち早く解雇するでしょう。

3つ目はBaddiの最も貧しい人々で、彼らはインド各地の多くの農村地域から来ています。しかし、彼らはヒンディー語を話せず他の部族語を話します。Baddiでの地元の言葉はヒンディー語であるため、ヒンディー語を話せなければ企業はその人を雇いません。

インドには多くの言語がありますが、国語として習うのはヒンディー語です。インドには、18の公用語があります。しかし、公式ではない言語は800以上もあります。例えば、地方に行くと2つの村の距離は4-10 kmだけしかありません。しかし、それでも彼らは異なる言語を話します。中にはヒンディー語を話せない人もいて、彼らは独自の言葉を話します。そうすると、彼らは企業では働けません。だから、彼らは別の生きる術を探しています。中には性商売をしている者、他には肉体労働をしている者もいます。インドでは多くの女性が肉体労働をしており、私は驚きました。なぜならば、日本ではこの種の仕事は主に男性がしているからです。そして他の人たちは、小さなビジネスを持っています。彼らは路上でゴミを拾い、それを売ります。

4つ目はBaddiで最も裕福な人々です。例えば、彼らは企業を所有し、企業の総支配人か高い地位についています。彼らは高等教育と立派な仕事を持っています。

私たちの地域のBaddiには8つのスラムキャンプ地区があり、インド人は彼らを「Jugy」や「Jugy People」と呼びます。英語では「ジプシー」と言い、彼らは地元の人ではありません。最も大きいキャンプには、1,000人以上の人がいます。最小のキャンプでは30~50人です。

今年の夏は最高気温が50度でした。たぶん想像出来るでしょう、彼らはテントの中で生活しています。そのテントには冷蔵庫、扇風機、エアコンはありません。

そして、中には肉体労働をする者、性的商売や犯罪をして生きている人もいます。また、彼らは家畜でも生計を立てています。しかし、家畜は汚染された水を飲み、ゴミを食べています。そして、人々はその肉と卵を食べており、それらは彼らの健康に良くないと思います。私はテントの中で長い間、母親が子どもからシラミと蚤を捕まえているのを見ました。そして、テントでは多くのハエを目にします。実際、これらのキャンプでは、衛星設備と下水設備は良いものではありません。





相原さんが血液検査を実施



相原さんが血液検査を手伝う



住民たち

最初、私は下水設備は貧困と関わっていると思っていました。勿論、関わっています。しかし、問題は貧困だけではありません。もしあなたが地元の人が住んでいる村に行ったら、見事なビルを見る事でしょう。しかし、道はとても汚いです。それは、人々が家からのたくさんのゴミを道に投げ捨てるからです。彼らは貧しくありませんが、気にしません。もしあなたがインドを旅行したなら、多くのゴミを目にするでしょう。

私はこの態度を懸念しています。Baddiは産業地区で、3,000以上の民間企業が工場を建てています。2010年から、企業の税金は無料になるため、政府はより多くの工場をBaddiに誘致するでしょう。実際、現在は多くの工場が建設中です。私たちの地区では、すでに多くの環境問題が発生しています。気候は急速に変化し、Baddiには大気汚染、水質汚染、土壌汚染、侵食、ゴミ汚染など、多くの公害があります。

7月中旬から、天気は突然変わりました。Baddiで雨季が始まったからです。気温は47度から34度に下がり、初め私はとても喜びました。よく眠れると思ったからです。

しかし、それはとても楽観的な考えでした。大量のハエや蚊がやってきて、私は毎晩、虫よけを使いました。ここでは、マラリアの問題がないので私はその分、幸運であったと言えます。

8月のある日、私たちの副監視官が言いました。「私は英語を教え、フィールド・オフィサーたちにプレゼンテーションをしたい。」

その日から、それが新しい仕事になりました。私と2人のインド人学生は、毎週金曜のミーティングで英語の授業の準備を始めました。私は話題をインドから選びました。例えば、このような話題です：「マラリアはインド北部からゆっくりと広がり始めた。」

私はフィールド・オフィサーたちにこの授業をし、この話題は彼らにとって本当に役に立ちました。

2008年9月チーム 相原進一

**College for International Co-operation and Development
(CICD)**

**@ Winestead Hall, Patrington
Hull, HU12 0NP
England**

Email: cicd05@yahoo.co.jp

Contact Details:

Tel: +44 (0)7813 854 298

+44 (0)1964 631 826

Fax: +44 (0)1964 631 695

Websites:

www.cicdvolunteer-japan.org.uk/

<http://volunteermemories.blog94.fc2.com/>

www.humanapeopletopeople.org